

# 立山



第 92号 2011年7月30日 夏号

- 部長のご挨拶 .....1.2
- 富山県造園業組合連合会青年部 .....3
- 日本造園組合連合会青年部長になって.....4
- 技能検定 .....5
- 茶事講習会に参加して  
一年間の活動記録その1 .....6
- 一年間の活動記録その2  
新入部員紹介・編集後記 .....7

発行所 富山県造園業組合連合会青年部  
編集・広報部 事務局  
〒930-0111 富山市長岡9686番地  
柴崎 英樹  
tel.076-431-0625 fax.076-431-0626

# ご挨拶

久しぶりの広報誌への寄稿です。ご機嫌いかがでしょうか？今井でございます。

平素より青年部活動にご協力頂きありがとうございます。皆さんのおかげをもちまして、無事に一年目の部長の職を務めることが出来ました。役員の方々、部員の皆さんに感謝いたしております。

さて、今年の青年部ですが、技能推進部による茶会講習会、企画厚生部による全国大会ツアー、広報部はホームページの充実、など…。これらの事業から走り始めたわけですが、昨年同様、皆さんのご協力と積極的な参加をお願い

したいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いたします。

堅い話は続かないので…もう四ヶ月前の



富山県造園業組合連合会  
青年部 部長

今井 浩司

話ですが、今年も造園感謝祭伊勢奉納献木に参加しました。毎年ただ参加しているだけなので、今年は富山県支部が二〇〇〇年に献木した立山杉に、施肥と防除(幹に硫黄合剤を塗布)をすることにしました。肥料と硫黄合剤、その他の道具をしっかりと準備していざお伊勢さんへ



…道中トラブルも無く、もう五回目になった伊勢路を楽しんでいたんですが、鳥羽市内に入って稲妻のごとく私の脳裏にある言葉が突き刺さってきました。「ハケ」…ハケがない。しまったハケがない。硫黄合剤を塗るハケがない。すっかり抜けていました。塗るのをやめたら？とささやくもう一人の自分がいまいましたが、そんなに簡単にあきらめ

てはイカン。同行の光地クンに手で塗らせることも考えましたが、それもイカン。困って車を走らせていると、イオンの看板が。早速イオンに入り、日用雑貨コーナーへ…ない。店員さんに聞いたら、障子糊を塗る毛の短いハケしかなかった。シヨンポリとイオンを出て、あきらめムードが漂う中、車を走らせていると今度はダイソーの看板。困ったときのダイソー。ここには絶対ある。そう確信してダイソーへ…でもない…おかしい絶対あるはずなのに。富山のダイソーではハケをみたことがあるような、ないような、あるような。絶対あるはずだからまた店員さんに聞いてみた。



「すみません、ハケちゃあるけ？」少し困った顔の店員さんは、すかさず食品コーナーに私を誘導し、陳列棚をしばらく見回してから、「うーん、ハケ茶はないですねー。すみません。」あやまらなくていいです…。



結局、ハケはありました。六種類ほどありました。ハケ茶を探してくれただおねいちゃんとは違うおねいちゃんので、ハケを三本買いダイソーを出て、高鳴る胸の鼓動を抑えつつホテルに向かい、翌日、無事に肥料やりと硫黄合剤を塗ることが出来ました。



**教訓〜正しい言葉遣いを覚えよう〜**

平成二十七年には北陸ブロックとしての伊勢献木が決定しています。お隣の石川県には、造園登録の青年部があります。ませんが、石川県の理事長さんからは、「二度、青年部どうしの交流会をやったらどうか？」というお話を、この造園感

謝祭の席でいただき、四月の石川緑化フェアの富山県青年部の庭の出展へとつながりました。これを機会に更に交流が深まればいいと思っています。私は事あるごとに皆さんに「青年部を利用してください」と言い続けています。技術習得、情報収集、人脈づくり、自分のためにこの青年部を利用してください。そして青年部に要望があれば聞かせてください。共に作り上げる青年部でありたいと思っております。私の部長職も半年となりますが、この思いは最後まで持ち続けていくつもりです。終わりに、今後も青年部に対し

### 造園感謝祭の様子



てのご協力をこの紙面をお借りしてお願いいたします。親組合の皆様方、青年部OBの皆様方におかれましては、昨年同様のご理解ご指導をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2011年1月22日

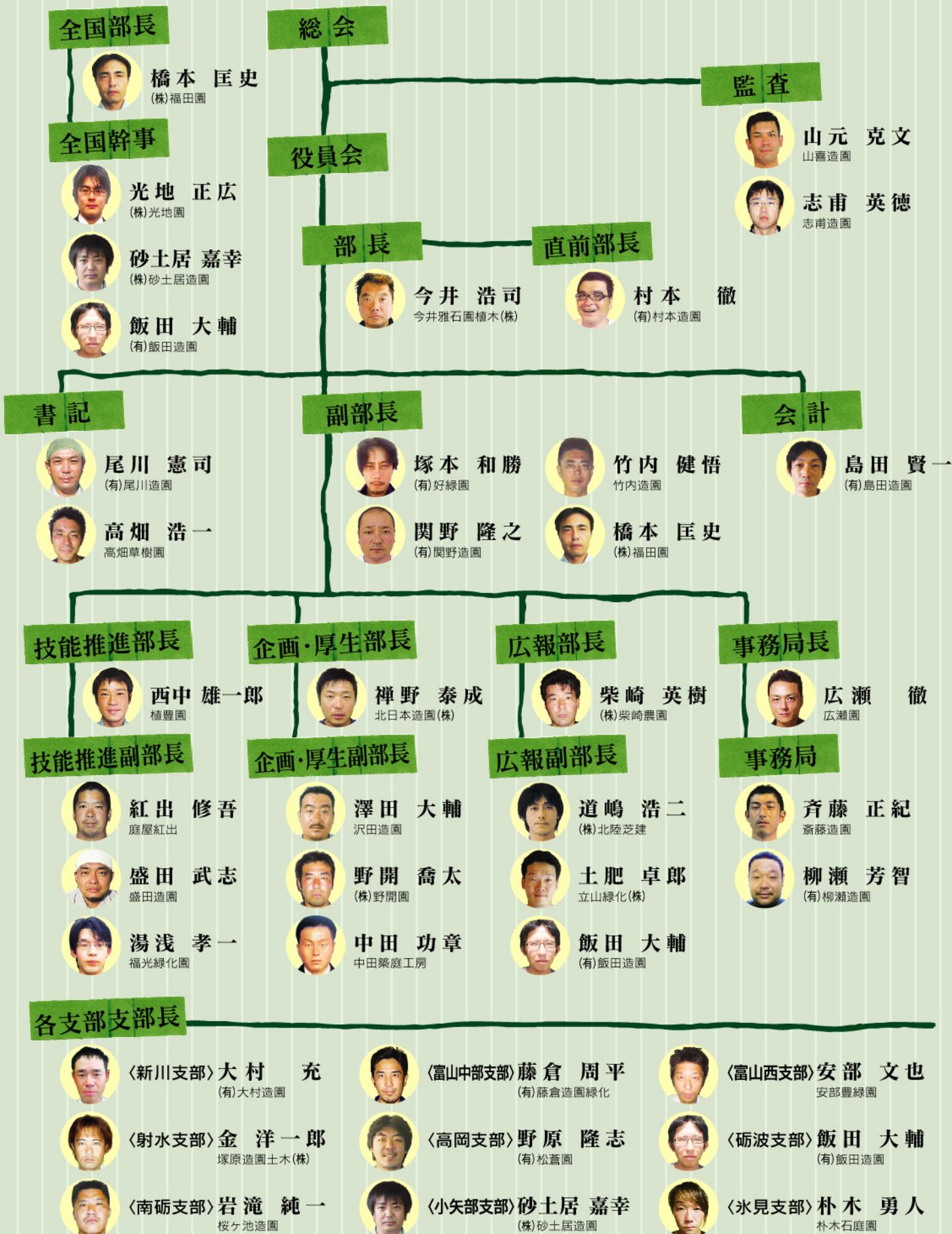
### 富山県造園業組合連合会 青年部 第36回定時総会開催



平成23年度

# 富山県造園業組合連合会青年部〈役割組織図〉

※平成23年6月30日現在



# 日本造園組合連合会 青年部長になって



橋本 匡史

去る6月10日の総会で全国青年部長の大役を仰せつかれることになりました。たくさんの先輩方が30年余りに渡って築かれたこの歴史ある青年部を思い出すと、たいへん身の引き締まる思いがいたします。15代目の部長として精一杯努めてまいりますのでよろしくお願いたします。

青年部とは、いろいろな交流をし、刺激を受け、またいくつもの失敗を経験するという場であると私は思います。同業者でありながら各々の仕事場では得られない体験や知識、そしてその仲間が将来の宝になるものと思います。青年部事業を通して会を盛り上げ、和をもってそれぞれの団結を図っていきたくと考えております。

現在24支部、670名の会勢となっておりますが、会員の増加は重要な課題となっております。宮城と青森では、東北ブロックとして

未加入他県に働きかけ交流し、支部を増やす為の取り組みを行っています。九州ブロックでも同様に裾野を広げる活動が行われています。平成27年には北陸ブロック当番で伊勢神宮の造園感謝祭が予定されています。この件をきっかけに、未加入の石川県青年者達と親睦を図ればと考えておりますし、私たちの活動が大切なものだと思えたいと思っております。

富山の青年部は、全国的にみても事業の内容、幅の広さ、参加者数等が秀逸で参考になりたいとよく言われます。組織と各役割担当者がしつかりしているからだと思えます。力強い富山青年部が頼もしく、またありがたく思います。

まだ若輩の身でありますので、親組合の皆様、諸先輩方、青年部の皆様のご指導とご理解をお願いして挨拶とさせていただきます。

MEMORIAL PHOTOGRAPH

総会

就任



記念講演会



初仕事!

全国大会  
交流会



研修  
旅行



# 「技能検定」

それはマイスターへの登龍門。その技能検定の学科、要素試験の予備講習会が毎年青年部主催で行われる。今年は、八月八日、気温35℃、日曜日、お盆前の忙しい時期。それでも当青年部からは、32名もの「造園バカ」がスタッフとして参加し、皆、汗だくになりながら講習会の準備にかかる。

「何故に？」この「造園バカ」達の熱く激しい一日に密着する。(※ここは「情熱大陸」のテーマ曲を口ずさもう。「プロフェッショナル仕事の流儀」でもよい。)



その男は葉っぱに弱かった…。特にハナミズキとヤマボウシの違いあたりから既に微妙な感じてあった。それでも男

は講習会一週間前から葉っぱ探しに余念がない。しかし男は、暑さと忙しさを理由に講習会前日に葉っぱを採集してしまうという愚行を犯してしまった。

## 「講習会当日」

講習会会場に到着すると、すでに4人の葉っぱ採集のプロ達が、ポリバケツに葉っぱを採集してきていた。見てみると、どの葉っぱも新鮮で形も色もきれいだった。「朝とれキトキト」(※よくスーパーで売っている刺身のパッケージに貼ってあるあれ)葉っぱ採集のプロの間では既に常識だった。男は反省した。前日に採集した男の葉っぱは、少ししなびていて茶色く変色していた。しかしブルーになっっている暇などなかった。既に受講者の方々が会場で待っていたからだ。

## 「学科講習会」

今年も講師には青年部OBの飯山様に講義して頂いた。毎回受講者からの評判が高い先生は、重要なポイントを解り

やすくまとめ、自ら資料を作成してこられる。本当に素晴らしい講義だった。

## 「要素講習会」

昼食後、すぐに会場の準備にかかった。テーブルの上のビール瓶に次々と「朝とれ」の葉っぱ達が挿されていった。皆、手慣れた手つきだ。しかし男はここである事に気付いた。「トベラがない」「男は慌てた。すぐに葉っぱ採集のプロにそのことを告げると、「〇〇の場所にある。」と言いつつ、すぐに現場へ直行した。講習会開始まで45分、30分、10分。時が無残にも過ぎていく。「間に合わない」と男が諦めたその時だった。「今日のその時」がおとずれた。(その時歴史が動いた)風に読もう。一人の男が、両手にトベラを持って走って会場に入ってきた。すぐにトベラの鑑定が行われ、無事ビール瓶に挿された。ちょうどその時、会場にある時計は、講習会が始まる時間をさしていた。



予定通り講習会が無事に始まり、スタツ



フ全員、タオルで汗をぬぐいながらそれぞれ役割をこなしていった。(※ここでは自分のやった仕事又は会場の風景を思い出そう。)

## 「講習会終了」

最後の受講者を送り出すと、「終わった。」と男は思わずつぶやいた。しかし会場では、既に青年部スタッフ全員によって後片付けが行われていた。誰も疲れた表情など見せずに…。むしろ何かを達成した男の顔になっていた。そう、一人でも多くの受講者の方が合格されることを願って…。

今年も予備講習会に多くの方々を受講していただき、有難うございました。また講師の飯山様、お忙しい中本当に有難うございました。青年部の皆さんも、暑い中朝早くからの準備お疲れさまでした。有難うございました。この場をおかりしてお礼申し上げます。

平成二十二年十二月二十三日

事務局 広瀬 徹





# 茶事講習会に 参加して

富山西部支部 尾川 憲司



3月27日(日)、技能推進部の企画運

営のもと茶事講習会が行われました。開催場所は高岡古城公園(博物館内)にある松聲庵であり、当日は天候にも恵まれ茶事講習を行うには良好の日でありました。参加者が多く2班に分かれての講習になりました。自分はA班で、①博物館の見学②抹茶の点て方、飲み方の説明③茶庭、茶室の説明、茶室への入り方④お茶会という順に受講しました。

抹茶の点て方、飲み方の実習では、菓型の茶入から抹茶を茶杓ですくいて茶碗に入れ、柄杓でお湯をゆつくり注ぎ入れ茶せんで使いお茶を点てました。先生から茶せんで細かい泡が立つようになると、ほとんどの方が初体験であり、力加減、泡立ち加減、手さばきなど、先生に質問が飛びかかっていました。お茶を点てる時の一番大切なことは、お



客さんに美味しいお茶を頂いてもらう為に清い心で行う(おもてなしの心)という事だったと思います。

次に茶庭(露地)、茶室の説明に移りました。説明は当青年部の福井さんが行いました。腰掛待合から蹲踞に向かう途中に額見石といって茶室の扁額を見やすくするための少し大きめの飛石が配置されていたのが印象に残っています。蹲踞の役石は裏千家の様式に配置

されており柄杓が置かれていました。蹲踞を思い心身を浄めて一会に臨む訳ですが、柄杓の使い方や手順はたい

へん勉強になりました。

次にお茶会に移りました。松聲庵は広間にも小間にも使える茶室ということで、



10人程の人数が席入りしても窮屈に感じませんでした。

貴人口から茶室に入る時の靴の脱ぎ方、茶室での移動の仕方、扇子の役割と使い方、お茶とお菓子の頂き方など、初めての経験で非常に戸惑い緊張しましたが、青年部の皆がいたので楽しく出たと思います。



今回、この講習会に参加して改めて感じたことは、日本の伝統と心そして技を大切にしたいという事でした。時代や生活スタイルは変わっても日本人としての心を大切に日々の生活に、そして仕事に活かして行きたいと思いました。

## 2010年夏~2011年夏 一年間の活動記録

その1

2010.09.26  
ソフトボール  
大会



2010.10.30  
竹垣講習会





## 新入部員紹介

①会社名 ②生年月日 ③趣味 ④抱負



〈南砺支部〉 古田 晃

- ①(有)サカタ二造園土木
- ②S55年7月22日(31歳)
- ③スキー
- ④いろいろな活動をしていく上で知識や技術を磨きたいです。



〈高岡支部〉 宮下 大輔

- ①庭や 糸谷
- ②S62年9月21日(23歳)
- ③釣り
- ④至らない点も多々あると思いますが頑張りますのでよろしくお願いします。

## 編集 後記

最初に、当初予定しておりました発行時期より大幅に遅れることになり、皆様には大変ご迷惑をお掛けする事になりました。深くお詫び申し上げます。早いもので暦は残暑厳しい8月に変わり、年齢を重ねていく度に時間の流れの速さに驚くばかりです。先日テレビで原因は、「日常生活の中で新しい体験することが徐々に少なくなり、なんとなく過ぎる時間が多くなるから。」と言っていました。

新しい事と言えば造園青年部もホームページを立ち上げました。さまざまな情報をホームページと広報誌という特性をもった2つのツールに使い分け、素材を活かしながら内外に向けて、効果的、効率的な情報発信に取り組んでまいります。今回もご多忙中にも関わらずご執筆ご協力下さいました皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、

今後ご寄稿アンケート等にご協力下さいませようお願いします。申しあげます。



富山県造園業組合連合会 青年部のホームページはこちら!  
▶<http://www.zoen-toyama.com>